



## 地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今号では、東北地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

### 東北地域ブロックから

東北地域ブロック担当理事  
元村 智明(東北福祉大学)

東北では、年度初めの2024年4月2日に岩手県沿岸北部を震源とするM6.0で最大震度5弱の揺れがあり、北海道から関東甲信越にかけて震度を観測しました。また2024年7月24日から26日にかけての東北地方を襲った記録的大雨は、25日に線状降水帯が山形県で発生し、秋田県や山形県を中心に土砂崩れや床上浸水の被害があり、秋田県内および山形県内の市町村では災害救助法の適用となりました。

被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。日常生活は、常に災害と隣り合わせにある状況だとあらためて思います。

そのなかで7月28日(日)に東北文教大学(山形市)を会場に「子どもの育ち×知る・引き出す・寄り添う—子どもの「自己肯定感」「自尊感情」を育む—」をテーマに第23回研究大会(山形大会)を開催しました。口頭発表では、分科会3会場で15演題の報告があり、参加者50人でした。記録的大雨後の大会開催について不安や葛藤がなかったわけではありませんが、開催校では入念なご準備とご対応をいただきましたこと感謝申し上げます。そのような状況であらためて社会福祉学の中で災害と福祉を考える機会になった大会であり、参加者の皆さんと災害時の生活支援の問題を共有できたように考えております。

そして東北部会は、その大会にあわせて『東北の社会福祉研究』(第20号記念誌)(全254頁)を研究論文5編、研究ノート6編、実践・調査報告1編、これまでの研究大会と歩みを振り返る頁を特集して7月に発刊しました。

年内12月14日(土)には、東北福祉大学仙台駅東口キャンパス(仙台市)で第21回日本社会福祉学会フォーラムが、「社会福祉学が切り拓く普遍性の探究—人びとの切実な声に応えるために—」をテーマに開催いたします。報告のひとつには、「災害福祉」の考え方や日常生活のなかに防災の視

点を活かすこと、災害によって日常生活そのものが中断してしまう状況の中で、福祉支援の考え方が含まれていることなどに言及いただく報告があります。

日本国内でも世界に眼を向けても「切実な声」が常にあります。そこには、危機的に生存を考える状況から日々の生活を考えることまで多岐にわたる問題がよこたわっています。第21回フォーラムでは、「切実な声」と向き合うことを社会福祉の学問のなかで考えることを共有できれば幸いです。東北部会では、参加者の皆様をお待ちしております。

すでに第21回フォーラムの受付をしておりますので、ふるってご参加ください。

